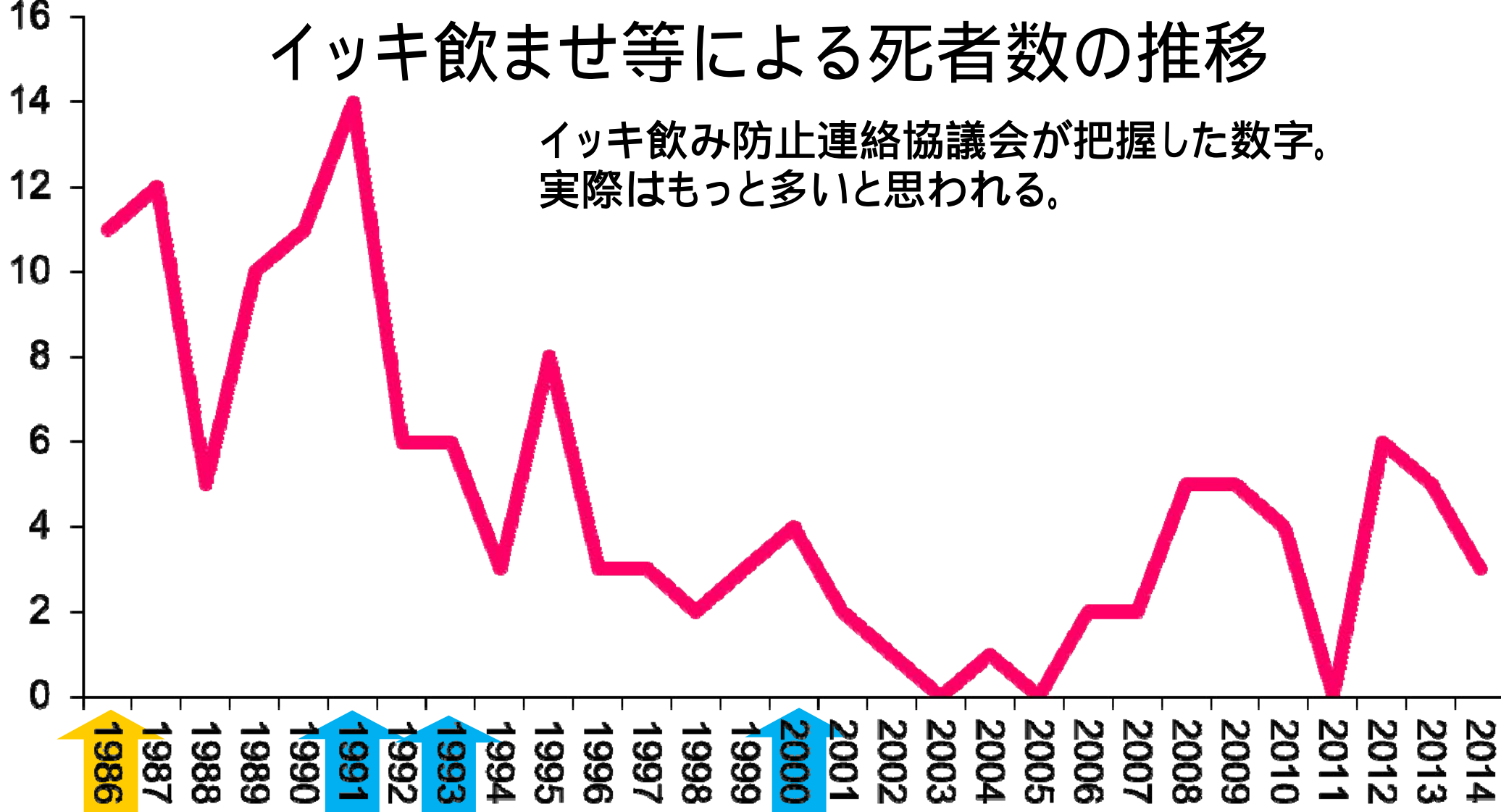


イッキ飲ませ等による死者数の推移

イッキ飲み防止連絡協議会が把握した数字。
実際はもっと多いと思われる。



1986

イッキ流行語大賞

1987

1988

1989

1990

1991

加来聡さん死亡

1992

1993

キャンペーン開始

1994

1995

1996

1997

1998

1999

2000

アルハラ打ち出す

2001

2002

2003

2004

2005

2006

2007

2008

2009

2010

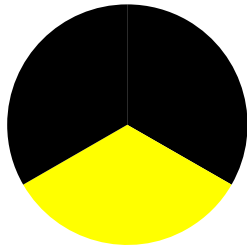
2011

2012

2013

2014

東日本大震災



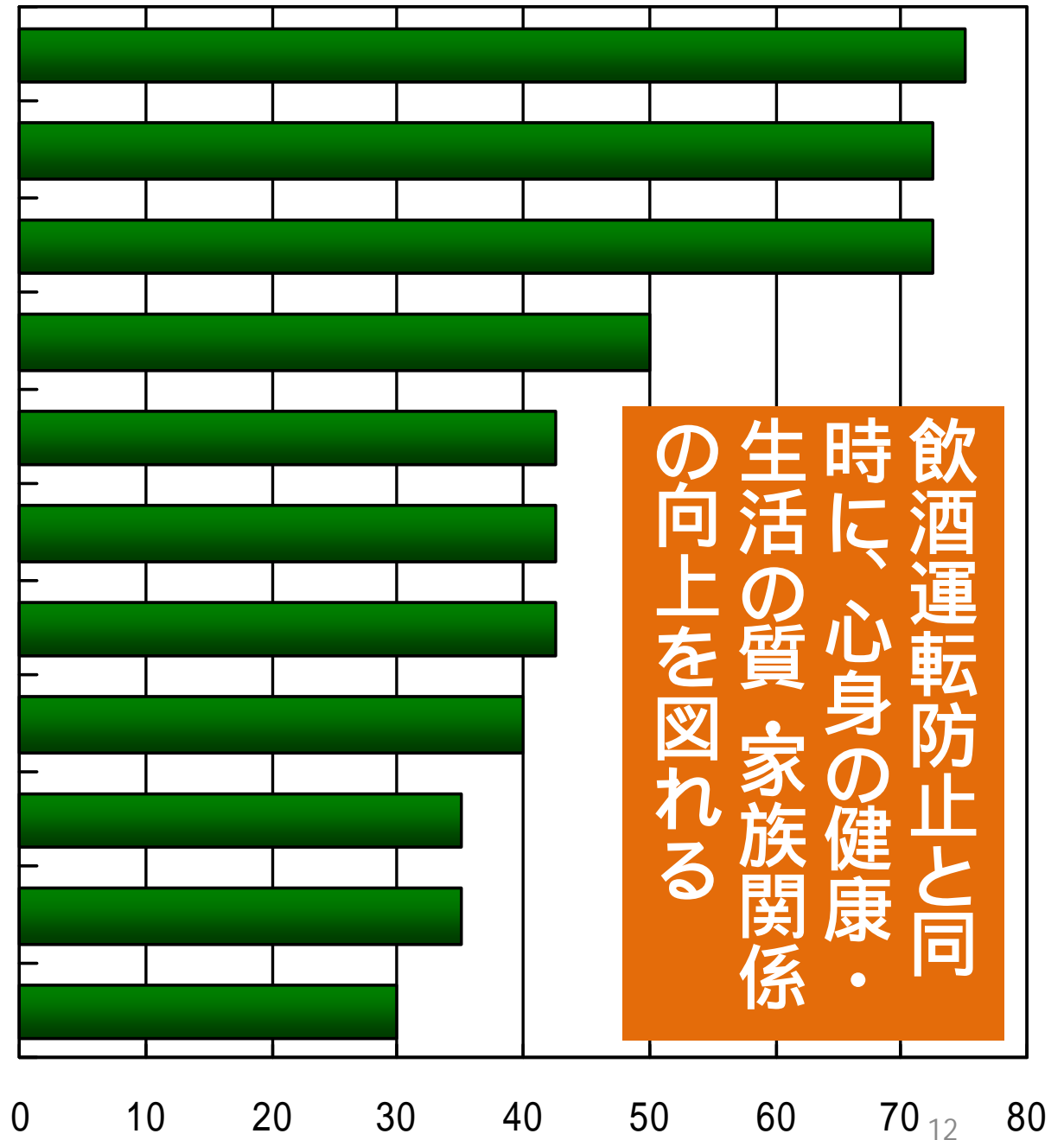
2次予防(進行予防)

早期発見・介入

- **電話ガイド** 1984～
- **治療相談先調査とガイドブック発行** 1990～
- **ホームページ・メルマガ・Facebookで情報提供**
- **依存症の通信講座** 1996～ (基礎3400名 介入技法780名)
- **研修 海外研修**1990～ **介入等のセミナー**1992～
- **飲酒運転違反者への教育プログラムの海外視察**
アメリカ2006 オーストラリア2007・2014
- **バス会社でのセルフケア・スクール** 2005～
- **飲酒運転防止インストラクター養成講座** 2008～

バス会社でのセルフケアスクール 修了者アンケート

プロとして自己管理の自覚
検知の心配なく精神的に楽
体調がいい
家族が協力的になった
別の楽しみが増えた
ご飯がおいしい
休日を有意義に過ごせる
家族と一緒に食事する
目覚めがすっきり
家族との会話が増えた
酒代が減り経済的に楽に



ASK 飲酒運転防止インストラクター養成事業

職場や地域でアルコールの基礎知識や節酒の方法を広める！

助成：日本損害保険協会

後援：内閣府 / 警察庁 / 法務省 / 国土交通省 / 厚生労働省 / 文部科学省

全日本交通安全協会 / 日本バス協会 / 全日本トラック協会 /
全国ハイヤー・タクシー連合会 / 日本交通安全教育普及協会
/ 全日本指定自動車教習所協会連合会 / 全国届出自動車
教習所協会

認定までの流れ

ステップ1 通信スクール 添削3回

ステップ1 スクーリング (1日集中)

ステップ1 実践報告シート提出

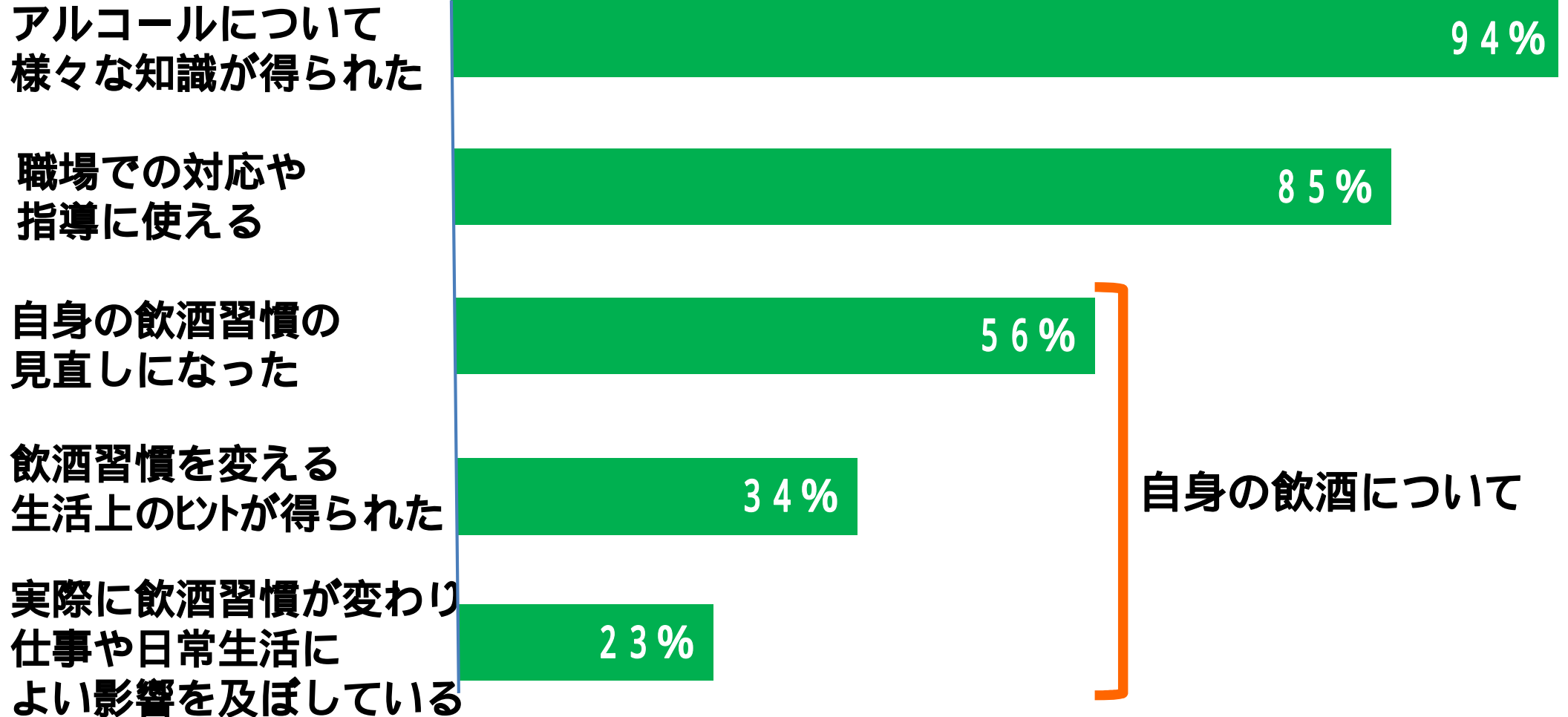


認定



養成講座認定者へのアンケート(6期)

99.6%が「養成講座は役立った」と回答



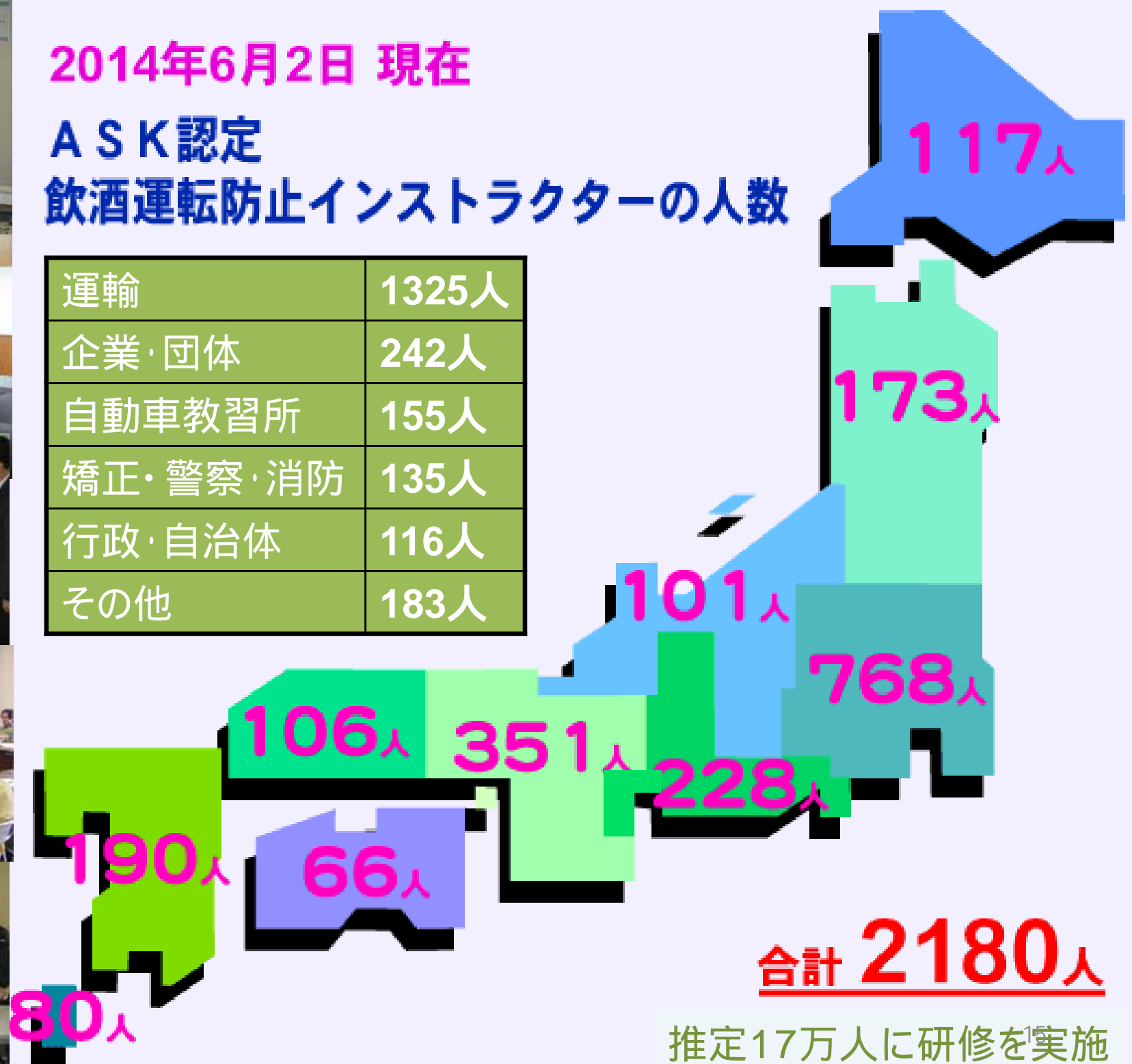
8割が節酒・断酒
(節酒76%・断酒3%)

{ 毎日飲酒 23% 2%
多量飲酒 28% 3%

2014年6月2日 現在

ASK認定 飲酒運転防止インストラクターの人数

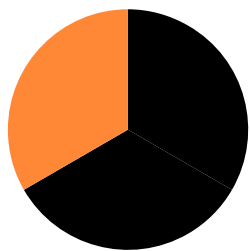
運輸	1325人
企業・団体	242人
自動車教習所	155人
矯正・警察・消防	135人
行政・自治体	116人
その他	183人



合計 2180人

推定17万人に研修を実施





3次予防(再発予防) 家族ぐるみの回復を支援 (世代連鎖を予防)

- 治療施設などの海外視察 アメリカ 1990～
- 当事者や家族の体験、回復の知恵を広く伝える
出版1985～
- 依存症からの回復についてのテキスト発行 1989～
- 共依存についての通信講座 2004～
- 家族ぐるみの回復に役立つライフスキル研修の開催
コミュニケーション、ストレス対処など 1994～
- グリーフワーク、ACセミナーなどの開催 1994～

基本計画に家族の声を



1	どこに相談したらいいかわからない。たらいまわしにされる。(保健所に専門病院を聞いたら、「ネット検索して」と言われた例も)	→広報、相談支援の充実
2	内科を何度も受診しているけれど、飲める体に治すだけ。医者から「一杯だけ」と言われると、飲み出してしまう。	→一般医療との連携、健診・保健指導、人材の育成
3	救急車が対応してくれない。搬送先が見つからない。(幻覚症状に、「心の病気では搬送できません」と帰ってしまった例も)	→救急との連携、人材の育成
4	飲酒運転で出て行ってしまう。事故を起こさないか、クビにならないか心配。どうやって止めればいいのか。	→警察との連携、相談支援の充実、人材の育成
5	酔って暴れるので交番に行ったが、警官は来てもすぐに帰ってしまい、「警察に言いつけやがったな」とまた暴れる。成人した子から親への暴力は、とくに行政の支援を受けにくい。	→警察との連携、相談支援の充実、人材の育成

基本計画に家族の声を



6	専門医療に相談したら、「酒を切ってから連れてきて」と言われた。それができないから困っているのに。	→家族支援、専門医療の充実、人材の育成
7	「妻が悪いから飲んだ」と夫の親戚から責められ続けた。援助者から、「家族も病気」「あなたは共依存」と言われ、私がいけないのかと傷ついた。離婚相談をしたが、弁護士や家裁がアルコール依存症への理解がない。	→家族支援の充実、人材育成
8	アルコール依存症と診断されたら、会社をクビになるのではないかと、心配でたまらない。	→偏見是正、職場の理解、社会復帰支援、人材育成
9	せっかく断酒したのに、職場や地域で、酒をすすめる。飲酒社会をどうにかしなければ。	→啓発、職場の理解、社会復帰支援
10	飲酒欲求をあおるテレビCMが多い。おいしそうにゴクゴク飲むCMはやめてほしい。	→不適切な飲酒の誘引防止

社会が飲酒を促進

飲みニケーション

百薬の長

ストレス解消

睡眠薬代わり

アルコールハラスメント

CM 安い 24時間

アルコール依存症

社会から排除

自業自得

個人の問題 / 自己責任
社会が面倒みる必要ない

人格非難

意志が弱い
だらしない
人格が未熟
ダメ人間
しょうもないやつ
社会のやっかいもの
モラルがない
脱落者
死んでもなおらない
死んでくれたほうがいい



正しい知識の普及

飲酒のガイドライン

不適切な飲酒への介入

いろんなストレス解消法

アルコールに頼らない睡眠

アルハラのない飲み会

酒類業界の配慮と社会規制

アルコール依存症

社会が回復を応援

システムづくり

- ・家族の相談支援の充実
- ・早期発見と介入の促進
- ・専門治療の充実
- ・社会復帰の支援
- ・家族ぐるみの回復を支援
- ・回復者の力を社会に活用

病気という認識

- ・性格の問題ではない
- ・誰にでも起こりうる
- ・人生はやり直しがきく
- ・職場で不利益をこうむらない

初めてのアルコール関連問題啓発週間

東京・池袋



堺市

全国の学校、酒販店、コンビニ、スーパーなどに25万枚配布!



広島市

大阪市



札幌市



東京・御徒町